

日本放射線化学会

今年度の放射線化学若手の会は、9月18日から20日の日程で神奈川県箱根町におきまして、早稲田大学鷺尾研究室の運営のもと開催されました。放射線化学若手の会は、放射線化学に携わる若手研究者・学生が大学という枠組みを越えて集まり、講演やポスターセッション、レクレーション、懇親会などを通じて、各自の研究内容の相互理解や、新たなる人間関係の形成を目的として開催されています。若手の会は1978年以来毎年行われてきた会であり、今年で26回目を迎えます。1978年といえば私だけでなく何人かの学生にとっては、自分たちの生まれた年でもありその歴史の深さに大変な重みを感じます。

今年度は、放射線化学討論会の担当も鷺尾研究室ということもあり、討論会に引き続き若手の会を開催することになりました。参加者も、半分以上が討論会から参加した方であり、また若手の会から参加された方も討論会のプログラムである浜田恵美子先生の「CD-Rの開発」のご講演から参加し熱心に聞き入っていました。

初日は、討論会のプログラムでもある東京理科大学の山下俊先生のご講演第一部ということで、『光反応、電子線反応による高分子材料の屈折率制御と光機能』というタイトルでご講演していただきました。

19日二日目はまず研究室紹介を行いました。研究室紹介では、各研究室の代表者がただ研究室の研究内容を述べるだけではなく、写真を使った大変ユニークな発表により、各研究室の特徴や雰囲気が反映され、研究室の相互理解につながりました。

研究室紹介のあと、山下先生のご講演第二部ということで、18日に引き続き山下先生にご講演していただきました。ご講演では先生が行われてきた研究の中から、有機溶媒中におけるBNSBとDSAの光化学反応と放射線化学反応について、お話をいただきました。先生の研究では、BNSBとDSAをBenzene, Toluene, THF, CH_2Cl_2 , に溶かした溶液において、レーザーフォトリシスや電子線パルスラジオリシスを用いて得られた極大吸収値や活性種の寿命から、 S_0 S_1 吸収、T-T吸収、電荷移動などについて考察されていました。先生のご講演では多くのデータについて、そのデータの一つ一つが一体何を示すものなのか、大変わかりやすく解説していただきました。

山下先生のご講演後、理論放射線研究所の大野新一先生に『宇宙史と生命史の

中で放射線が支配したもの』というタイトルで間に昼食を挟み、第一部、第二部という形でご講演していただきました。先生には、ピックバンから始まり、宇宙進化と元素合成、地球上における生命構成分子の合成、地球の形成、そして生命の誕生と進化という過程の中で放射線化学反応と光化学反応の果たしてきた役割についてお話をいただきました。先生のご講演では、生物の進化は、放射線化学反応や光化学反応との密接な関わりによって起こってきたということをお話ししていただき、我々が関わっている放射線化学や光化学の壮大さを実感いたしました。

大野先生のご講演後、場所を移しましてレイクアリーナ箱根という体育館を貸切り、レクレーションとしてバトミントンを行いました。バトミントンでは、他大学のメンバーとの親睦を深めてもらいたいという趣旨のもと、ダブルスのペアを抽選で決めました。バトミントンは各グループに分かれリーグ戦形式で行ったため、試合を行っているペアだけでなく、試合のないペアも大いに盛り上がりしました。このバトミントンでは、東工大の福澤さんと早大の松尾さんのペアが圧倒的な強さを見せ優勝しました。

その後、宿舎に戻り、夜のポスターセッションまでの間、フリー時間ということで多くの人が近くにある箱根ユネッサン森の湯にて気分転換をしました。また、今回の晩御飯は討論会と同じ場所である箱根小涌園だったのですが、大変美味しい料理やデザートがバイキング形式でたくさん出たため、ついつい食べ過ぎてしまい体重が増えてしまったという参加者多くいました。

夜は、ポスターセッションということで 12 名の方にポスター発表をしていただきました。今回のポスター発表では、討論会で発表のなかった 4 年生など多く参加することで、日ごろの研究成果や悩みについて修士や博士、助手の方に大学の枠組みを超えて多くのアドバイスをもらうことで、大変勉強になりました。また、若手の会の和やかな雰囲気のおかげで、普段の学会ではなかなか聞くことができない質問も、気軽に聞くことができ、大変有意義な時間をすごせました。中には、発表者のポスターを持ち帰る参加者も見受けられました。ポスター発表の時間は、21:30 までだったのですが、参加者全員が非常に白熱した意見交換を行っていたため、結局 30 分以上延長するほどでした。このポスター発表では、参加者全員に投票用紙を配り、最も良かったと思うポスター発表に投票してもらい、ポスター賞を決めました。ポスター賞は、「高 LET イオンビームによる高分子ナノ構造体の形成・制御」というタイトルで発表を行った、阪大の佃さんが 2 位以下を大きく突き放して、受賞しました。

その後、宿舎に戻り、懇親会を兼ねました打ち上げを行いました。打ち上げで

は、同じ大学同士が固まるといったこともなく、皆さん積極的に他大学との交流をはかり、日ごろの研究内容や先ほどのポスター発表についての議論、さらにはバトミントンの反省などで盛り上がっていました。

最終日である 20 日は芸術鑑賞ということで、彫刻の森美術館に行きました。ここまで二日間は天候にも恵まれたのですが、最も晴れなければならない 3 日目に残念ながら雨となってしまい(台風が接近中でした)、雨中での芸術鑑賞となってしまいました。彫刻の森では、ピカソ展が行われていたのですが、美術の教科書に載っているようなピカソの絵を生で見ることで大いに感動しました。

以上が 3 日間の報告です。

今年の若手の会は、参加者は 32 名と昨年度より微増の人数でした。参加大学も近年固定されつつありますが、今年は東京理科大山下研の方々が新たに参加していただきました。今後、若手の会の更なる発展を促すためにも、例年参加する大学だけでなく、より多くの大学に参加していただけるような環境作りの必要性を感じました。この点につきましては、早大濱研の岡さんからメーリングリストを作り、常に若手の会の情報を提供してはどうかと提案を受けました。私個人の意見では、各研究室の先生方からも若手の会へ積極的に参加を後押ししていただけたら、と思っています。そのためには若手の会について先生方がより理解を得られるよう、我々が若手の会をよりよいものにしていく必要があると感じました。

今年度の若手の会では、大学の枠組みを超えた交流を目標に会を進行していました。現在、若手の会ではドクターや助手の方々の間では大学に関係なく非常につながりの強さを感じましたが、修士や学部生の間では若手の会や学会の参加回数が少ないとすることもあり、大学の枠組みを超えたつながりは非常に薄いものでした。今年度の若手の会では、バトミントンやポスターセッションなどを通じてより他大学との交流をはかりやすい状況を作り出すことで、新たな人間関係の構築に成功したと思っています。実際、二日目夜の懇親会では、修士や学部生が自分の大学のメンバーとだけでなく、他大学との交流を非常に楽しんでいる様子が見受けられ、大学の枠組みを超えた交流という意味では非常に有意義な会になったと思っております。今後、今回の参加者同士が別の学会などであった際に更なる交流をはかっていただけたら、と思っております。

最後になりましたが、若手の会に補助金を出していただきました、日本放射線化学会に感謝を申し上げます。また、若手の会のために、多くの寄付をして

いただきました、新会長の市川恒樹先生をはじめ多くの先生方に御礼申し上げます。また、お忙しい中、ご講演していただきました、大野新一先生と山下俊先生に深く感謝いたします。来年度の幹事は東京大学の勝村研の方々が引き受けさせていただきました。来年の若手の会もよりよいものとなるよう祈ってあります。

2003 年度放射線化学若手の会事務局
早稲田大学 理工学総合研究センター 鶯尾研究室
修士 2 年 小林雅貴
e-mail: toproad@ruri.waseda.jp